

# Mémoires 2018

菊花賞



第79回菊花賞(GI) 優勝馬 フィエールマン



## 最後の一冠は息詰まる大接戦

ダービー馬で、神戸新聞杯も制していたワグネリアンが不在ということもあり、絶対的な主役の見当たらない混戦模様。1番人気には、古馬相手の新潟記念を豪快に差し切ってきたブラストワンピースが推された。

好スタートから逃げたのは、セントライト記念を2番手から押し切って勝利したジェネラーレウノだった。皐月賞馬エポカドローは3番手の内、フィエールマンは好位集団の後ろで、ブラストワンピースは後方でじっくり構える。最初の1000mは62秒7、次の1000mは64秒2とペースは遅く、落ち着いた流れでレースは勝負どころから直線に入った。

横に広がった馬群のいちばん外から先頭に立ったのは、神戸新聞杯2着、2番人気のエタリオウだった。スタート直後は後方2番手と後手を踏んだが、そこから徐々にポジションを上げて早めにスパート。ミルコ・デムーロ騎手の手綱に依って堂々と抜け出し、ゴールを目指す。そこに鋭く追ったのがフィエールマンだった。

クリストフ・ルメール騎手が「進路がなくて抜け出すのに時間がかかったけど、前が開いてからはすごく良い反応でした」と振り返ったように、馬群を割って内から一気にエタリオウを捉える。エタリオウも、馬体を併せられるとそこからまた盛り返す。ルメール騎手とデムーロ騎手、2人の意地がぶつかりあう激しい競り合いは、わずかにハナ差、フィエールマンに軍配が上がった。

フィエールマンは、ここまでキャリアわずか3戦。新馬戦と500万下の山藤賞を勝ち、GⅢのラジオNIKKEI賞2着から3か月半以上の間隔を空けてこの菊花賞へ進んできた。手塚貴久調教師は「体力以上に走ってしまう馬で、前走後もダメージが大きかったのでトライアルは使わないでいこうと決めました」と、このローテーションで臨んだ理由を説明した。

デビュー4戦目での菊花賞制覇は1946年アツマライ、1987年サクラスターオーの6戦目を更新する最少記録。約3か月半ぶりというレース間隔も、皐月賞以来6か月半ぶりだったサクラスターオーに次ぐ2番目の長さ。平成最後の菊花賞を制したのは、まさに異例づくめのローテーションで臨んだフィエールマンだった。

▶フィエールマンは最少のキャリアで菊花賞を制した。



### 第79回菊花賞(GI)

10/21 京都競馬場 3000m(芝・右・外) 晴・良 18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	フィエールマン	牡3	57	C.ルメール	手塚 貴久	3:06.1	⑦	⑦⑦⑤⑥
2	エタリオウ	牡3	57	M.デムーロ	友道 康夫	ハナ	②	⑩⑨⑧⑥
3	ユーキャンスマイル	牡3	57	武 豊	友道 康夫	1 1/2	⑩	⑨⑨⑩⑩
4	ブラストワンピース	牡3	57	池添 謙一	大竹 正博	3/4	①	⑫⑪⑩⑨
5	グローリーヴェイズ	牡3	57	福永 祐一	尾関 知人	1/2	⑫	⑭⑭⑭⑭⑭
6	タイムフライヤー	牡3	57	和田 竜二	松田 国英	3/4	⑬	⑪⑪⑫⑫
7	シャルドネゴールド	牡3	57	藤岡 康太	池江 泰寿	1 1/2	⑮	⑯⑯⑯⑯
8	エポカドロー	牡3	57	戸崎 圭太	藤原 英昭	ハナ	③	③③③⑤
9	ジェネラーレウノ	牡3	57	田辺 裕信	矢野 英一	1 1/4	④	①①①①①
10	グレイル	牡3	57	岩田 康誠	野中 賢二	2	⑧	⑰⑰⑰⑰⑰
11	ステイフーリッシュ	牡3	57	藤岡 佑介	矢作 芳人	クビ	⑪	⑭⑭⑭⑭⑭
12	アフリカンゴールド	牡3	57	松岩 風馬	西園 正都	2	⑨	⑤⑤⑤③
13	グロンディオーズ	牡3	57	J.モレイラ	田村 康仁	3/4	⑥	⑫⑫⑫⑭
14	メイショウテッコ	牡3	57	松山 弘平	高橋 義忠	1/2	⑤	⑤⑤⑤⑤⑤
15	コスミックフォース	牡3	57	浜中 俊	国枝 栄	クビ	⑬	③③③③③
16	アイトーン	牡3	57	国分 恭介	五十嵐忠男	9	⑰	⑰⑰⑰⑰
17	カフジバンガード	牡3	57	幸 英明	松元 茂樹	1 3/4	⑱	②②②②②
18	オウケムーン	牡3	57	北村 宏司	国枝 栄	8	⑯	⑱⑱⑱⑱

単勝⑨1,450円 複勝⑨450円 ⑩160円 ⑪600円 ⑫1,860円  
 馬連⑨-⑫2,380円 馬単⑫-⑨6,010円 ワイド⑨-⑫930円 ⑰-⑫4,610円 ⑰-⑨1,550円  
 3連複⑰-⑨-⑫16,710円 3連単⑫-⑨-⑰100,590円

ハロンタイム 12.8-11.9-12.5-12.9-12.6-12.4-13.3-13.0-12.8-12.7-12.8-12.2-12.2-10.7-11.3  
 通過タイム 600m⑨37.2-800m⑨50.1-1000m⑨1:02.7-1200m⑨1:15.1-1400m⑨1:28.4-1600m⑨1:41.4-  
 1800m⑨1:54.2-2000m⑨2:06.9-2200m⑨2:19.7-2400m⑨2:31.9-2600m⑨2:44.1-2800m⑨2:54.8

優勝馬 **フィエールマン**  
 2015.1.20生 父ディーフィンバクト 母リュヌドール 母の父Green Tune  
 安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)サンデーレーシング



▲ 栄光のゴールを目指し、各馬の動きが激しくなる4コーナー。